

令和 2 年度 資金運用計画

令和 2 年 4 月

東京都水道局 経理部

1 令和2年度の資金運用計画策定に当たっての考え方

(1) 経済・金利動向について

日本経済について、政府は「令和2年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度^(注1)」において、令和2年度の経済見通しを「雇用・所得環境の改善が続き、経済の好循環が進展する中で、内需を中心とした景気回復が見込まれる」としました。また、令和2年2月の月例経済報告^(注2)においても、経済の基調判断を「景気は、輸出が弱含むなかで、製造業を中心に弱さが一段と増した状態が続いているものの、緩やかに回復している」としています。なお、先行きのリスクとしては「新型コロナウイルス感染症が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある。また、通商問題を巡る動向等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響にも留意する必要がある」としています。

金融情勢を見ると、日本銀行は、令和2年1月21日に公表された経済・物価情勢の展望^(注3)において、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を推進するもとの、短期・長期の実質金利は見通し期間を通じてマイナス圏で推移すると想定している」としていることから、令和2年度についても金利は低い水準で推移していくものと考えられます。

(注1) 令和2年1月20日閣議決定

(注2) 『内閣府 月例経済報告』(令和2年2月20日)

(注3) 経済・物価情勢の展望(日本銀行、令和2年1月21日)



(2) 計画策定に当たっての考え方

令和2年度は、日本銀行の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続などにより、金利は低い水準で推移することが想定され、資金の運用には困難な状況が続くものと考えられます。

このような環境の下、令和2年度の資金運用に当たっては、景気の動向や金融政策の先行きに特段の注意を払いつつ、「東京都水道局資金運用方針」に基づき、安全性及び流動性の確保をした上で、満期保有を前提に柔軟かつ効率的な運用を目指していきます。

2 資金運用計画

1 水道事業会計

(1) 資金収支見通し

令和2年度の資金収支見通しは、以下の表のとおりとなっています。

例年、水道料金収入は年間を通じて安定しておりますが、工事費用等の支出が年度後半から年度初めにかけて集中する傾向があり、企業債の発行等を行い、資金手当を行っています。

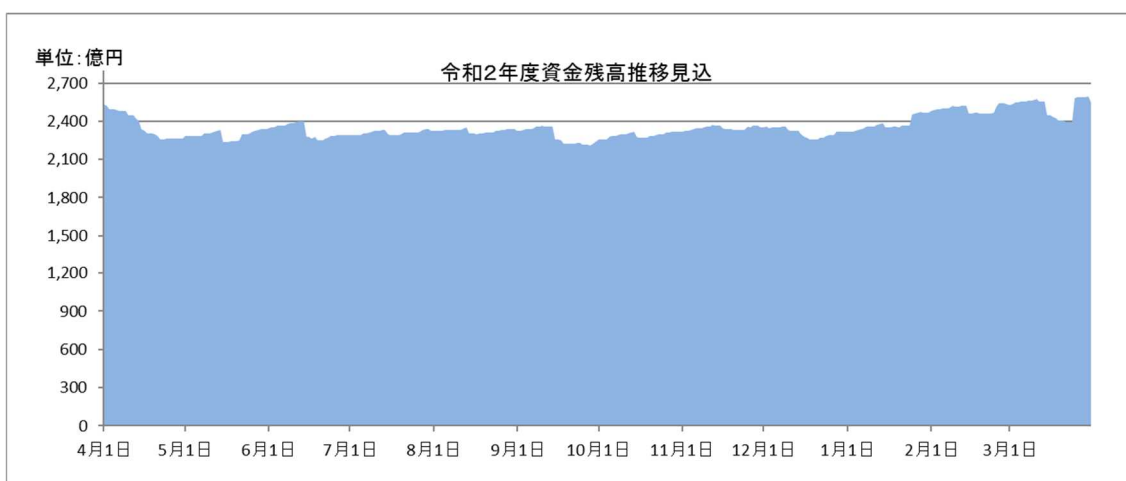
令和2年度の期末残高は、12億円増加し、2,548億円となる見込みです。

(単位 百万円)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	2年度計
収入	144,960	136,333	141,103	182,578	604,975
支出	169,269	141,364	133,485	159,574	603,693
差引	-24,309	-5,031	7,618	23,004	1,282
期末資金残高	229,295	224,264	231,881	254,886	254,886
平均資金残高	232,823	230,640	231,568	246,177	235,249

(注1) 端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 平均資金残高は四半期ごとの平均です。



(2) 運用方法

水道局における資金運用は、地方公営企業法施行令により最も確実なかつ有利な方法で保管しなければならないとされており、支払に支障をきたさないよう細心の注意を払った上で、効率性についてもできる限り確保するため、「東京都水道局資金運用方針」に定める預金と債券の運用商品を選択します。

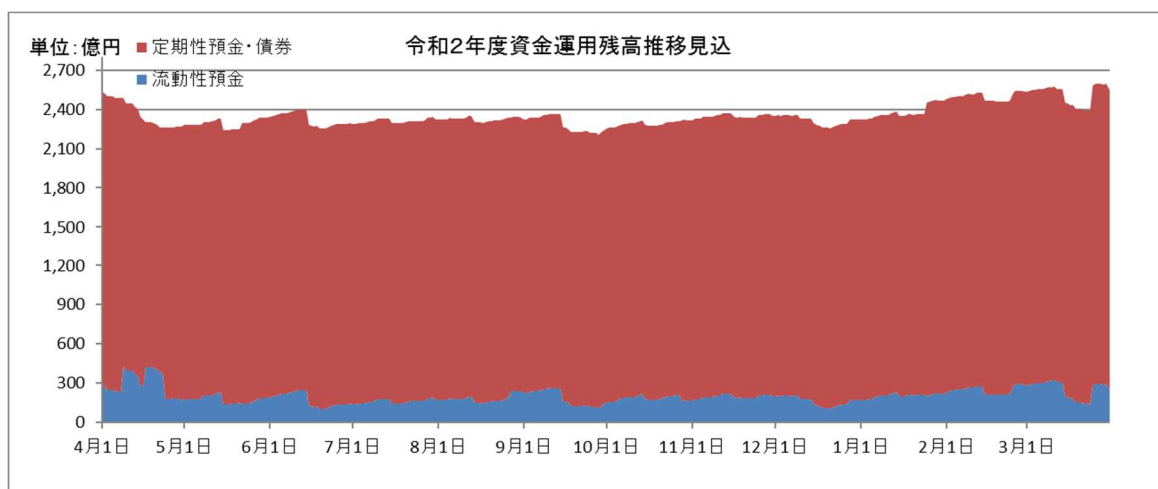
令和2年度は、日々の支払に備えるため、平均200億円程度を流動性預金で保管し、流動性預金を除く資金については、効率性を確保するため、次年度末までに満期を迎える、定期性預金及び債券の金利を比較した上で運用を行います。

(単位 百万円)

		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	2年度計
期末資金残高		229,295	224,264	231,881	254,886	254,886
平均資金残高		232,823	230,640	231,568	246,177	235,249
運 用	流動性預金	21,570	17,542	18,035	23,454	20,129
	定期性・債券	211,253	213,098	213,533	222,722	215,121

(注1) 端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 平均資金残高は四半期ごとの平均です。



2 工業用水道事業会計

(1) 資金残高の見通し

工業用水道事業は、地盤沈下対策として、地下水揚水規制の代替水を供給しており、その会計は、工業用水道事業会計として表示しています。

令和2年度の平均残高の見込みは以下のとおりです。

(単位：百万円)

会計名	平均残高
工業用水道事業会計	6,684

(2) 運用方法

工業用水道事業は、平成30年10月に「東京都工業用水道条例を廃止する等の条例」が公布され、令和4年度末をもって廃止することが決まりました。

今後は、工業用水道事業の廃止に係る費用の増加が見込まれますが、そうした資金需要に備えて、次年度末までに満期を迎える大口定期預金により、運用を行います。

(単位：百万円)

区分	平均残高
流動性預金	988
大口定期預金	5,695